

SERI NEWS RELEASE

平成 25 年 10 月 30 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 25 年 10～12 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「10～12月期の見通し」は、
『上昇』が1業種、『やや上昇』が2業種、『横ばい』が17業種～

- 平成25年9月実施の静岡県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査では、現在（7～9月期）の業況は、『順調』が2業種、『普通』が3業種、『低調』が14業種、『不調』が1業種となり、前回（4～6月期）と比べやや上向きとなった。
- 平成25年10～12月期の見通しについては、20業種中、「自動車販売」が『上昇』、「自動車部品」と「大型小売店」の2業種が『やや上昇』、17業種が『横ばい』となった。消費増税を前に駆け込み需要が本格化し個人消費が上向きつつも、製造業の業況は改善しておらず、企業収益の増加・賃金の上昇が待たれる。

担当：出版担当 望月

駆け込み需要が本格化するも、収益的には厳しい状況

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成25年7～9月期）の業況は、『好調』とする業種はなく、『順調』が2業種、『普通』が3業種、『低調』が14業種、『不調』が1業種となった。

前回（平成25年6月）調査との比較では、猛暑でエアコン売上が好調に推移した「民生用電器部品」が『普通』から『順調』に、「家電量販店」が『低調』から『普通』に上昇。需要が回復傾向にある「観光・レジャー」も『普通』に1ランク上昇した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成25年10～12月期の見通しは、20業種中、『上昇』が1業種、『やや上昇』が2業種、『横ばい』が17業種となった。

業種別にみると、新型モデルの発売や消費税引上げ前の駆け込み購入が寄与する「自動車販売」が『低調』から『上昇』、「自動車部品」が『低調』から『やや上昇』の見通し。高額品の販売が順調な「大型小売店」が『低調』からの『やや上昇』が見込まれる。

『横ばい』予想は17業種で、白物家電の駆け込み需要が底支えする「民生用電器部品」が『順調』のまま『横ばい』。贈答需要が大震災前の水準に戻りそうにない「製茶」、小売価格引上げにより数量の伸びが期待できない「食品・飲料」、原燃料コストの上昇で収益的に厳しい「家庭紙」、「産業用紙」、新興国向けの需要低迷が続く「工作機械」の製造業5業種が『低調』のまま、欧州向けの底打ちが近いとみられる「二輪車部品」が『不調』で『横ばい』の見通し。非製造業では、増税前の契約案件の着工が最盛期を迎える「住宅」が『順調』のまま、工場や物流倉庫、店舗を中心に新設工事が増加するとみられる「建設」と、大画面テレビや4Kテレビの動きが良くなりつつある「家電量販店」、消費者マインドの改善で需要が戻りつつある「観光・レジャー」が『普通』のまま『横ばい』の見通し。業態を超えた店舗間競争が一層激しくなると予想される「食品スーパー」、建材以外の積荷の動きが期待できない「運輸・倉庫」、主力の製造業向け案件が低調な「情報サービス」、コストアップの一方、売上が大きく伸びる材料が乏しい「外食」、駆け込み需要が見込まれるものの、全体の水準は低い「リース」、証券業務などで需要は高まるが人材を確保しきれない「人材派遣」の6業種で『低調』のまま『横ばい』の見通し。

なお、半期調査業種では、別珍・コール天の引合いが弱い「繊維」は『低調』のまま、増税前の住宅需要が堅調な「製材」が『普通』のまま、それぞれ『横ばい』の見通し。



来年4月の消費税引上げが決定し、駆け込み需要が本格的に顕在化しており、年末に向けて各商戦が久しぶりに盛り上がる気配が感じられる。ただし、原材料・燃料コストは高止まりしており、企業は従業員の賃金水準を引き上げる余裕はなく、消費者マインドは低いままである。製造業、非製造業ともコスト増加に見合う価格水準を取り戻した上で、勤労者の給与を引き上げていかないことには、自律的な景気回復は難しい。